



日本共産党 北区議会議員

のの山けん区政レポート

http://kyoukita.jp/nonoyama/ mail@ken-nonoyama.com

No.522 2019.6.19

日本共産党北区議員団

〒114-8508 王子本町1-15-22

ご相談は
お気軽に **090-2156-3510**

くらしに希望の区政に



北区議会第2回定例会 さがらとしこ区議が代表質問

19日に開会した改選後初となる区議会第2回定例会。初日は各会派の代表質問がおこなわれました。日本共産党からは、さがらとしこ区議が質問に立ち、花川区長に「くらしに希望がもてる区政に」と迫りました。(のの山けん)

さがら区議はまず、

10月から予定されている消費税10%増税の中止を国に求めると要請。内部留保を

440兆円もためこんでいる大企業やアベノミクスで大もうけしている大株主などに適正に課税し、米軍への「思いやり予算」を削減して7兆5000億円の財源を生み出す日本共産党の提案を紹介し、「10%消費税に頼らない別の道で、くらしを支える政策の実現を」と訴えました。

これに対し花川区長は、「国の適切な判断のもと行われるものと認識し、中止を求めることは考えていない」

などと、増税を容認する立場を示しました。

高すぎる国保料の引き下げを

続いて、制度が都道

県化された下で、4月からさらに値上げされた国民健康保険料について、「高すぎて払いたくても払えない」との悲鳴があがっていることを紹介し、1兆円の公費投入で保険料を抜本的に引き下げよう国に求めるとともに、北区として18歳未満の子どもの均等割を半額にするよう提案。

区長は、「画一的な基準で減免することは適切でないとの厚労省見解がある」などとし

て、区が独自に保険料を軽減することを拒否する答弁に終始しました。ところが厚労省の見解にもかかわらず、

子どもの均等割減額など独自軽減に踏み切る自治体は全国に広がっており、区の姿勢が問われます。

加齢性難聴者に補聴器購入助成を

さらに、加齢とともに言葉が聞こえにくくなる高齢者に対して、15〜30万円と高価な補聴器を、北区として現物支給することや購入費助成をおこなうよう求めました。

区長は「国への要望を含め、助成制度については他自治体の取り組み状況の把握に努め、今後の検討課題としたい」と答えました。



消防団操法大会

16日、赤羽小学校で開かれた消防団の操法大会を見学。今年は、選手として活躍する女性の姿も目立ちました。日頃から災害に備えて訓練に励んでいる消防団員みなさんに感謝です。(のの山けん)

「減らない年金」の実現こそ

日本共産党北区議員団と池内さおり前衆院議員が王子駅で訴え



「年金の底上げを」と訴える池内さおり前衆院議員

14日、日本共産党北区議員団は、池内さおり前衆院議員とともに王子駅北口で街頭宣伝。夫婦の老後資金が公的年金以外に2000万円必要などとした金融庁の報告書に怒りと不安の声が広がる中、年金を自動的に削減するマクロ経済スライドを廃止し、低年金者に一律年6万円を上乗せする、日本共産党の年金制度改革案を詳しく紹介しました。(のの山けん)

現代社会は独裁者を受け容れるのか

映画「帰ってきたムッソリーニ」(ルカ・ミニエーロ監督) 9月20日より新宿武蔵野館ほかにて公開

あのムッソリーニが現代に現れたらどうなるか一言わずと知れた国家ファシスト党の「統帥」(ドゥーチェ)、かつての独裁者を引き合いに出し、現代社会の在り方を問う刺激的な映画だ。

インターネットという設定には妙なリアル感がある。映画はさらに、「視聴率をとるためには独裁者でも担ぎ出せ」というテレビ局の体質も浮き彫りにする。街を歩くムッソリーニと腕を組んで笑顔で写真を撮る若者や、巧みな話術に熱狂するテレビ視聴者、インタビューに「政治のことなんて関係ない」と言い放つ市民が登場する一方で、独裁者が持ち上げた女性テレビ局長が放つ、「それは70年も前の話よ」という一言が突き刺さる。

舞台を日本に置き換えたらどうなるかと考えながら、この笑えない映画を観た。イタリアよりもっと、独裁は進んでいるのではないかと。(のの山けん)

